(1) 2023 年度(第 72 期)を振り返って

2023 年度(第 72 期) 理事長 春山 大樹

はじめに 2023 年度の大垣青年会議所の活動や運動に関わって頂きました、すべての皆様に感謝を申し上げます。先輩諸兄をはじめ、西美濃地域の行政の皆様、関係各諸団体の皆様、地域の方々、会員の皆様からのご支援、ご協力を賜り、2023 年度の大垣青年会議所の活動や運動に邁進することができました。重ねて心より御礼を申し上げます。

2023 年度の大垣青年会議所は 2020 年より続いていた新型コロナウイルス感染症の影響による自粛や制限などが緩和され、コロナ渦前の青年会議所の活動や運動が再開される年となりました。しかしながら大垣青年会議所の現状は近年在籍年数が短く、経験年数の浅い会員が多くを占めている現状があることから、コロナ渦前を経験している会員も少なくなっていました。多くの疑問や戸惑いを抱きながらも先輩諸兄や関係各諸団体の皆様からのお力添えを頂きながら、青年会議所の理念を改めて見つめ直し、原点に立ち返って「品格のある青年経済人」として自らを律し、自身の社業の発展だけではなく、会員や社会のために活動や運動を行う団体として、「覚醒～反骨心と和の心を持って真の平和に目覚める～」をスローガンに掲げ、この西美濃地域の発展に貢献する魅力ある組織を目指して邁進した年となりました。

2023 年度の 1 年を振り返ると、「権威や権力、古い習慣に屈しない反骨心」を持って歴史を学び、「一人ひとりの知恵を集め、尊重し、助け合う、思いやりのある和の心」を持って活動や運動に取り組むことで、新たな社会価値の創造を目指すと共に、71 年もの歴史を紡いでくることができたのは、様々な苦難を乗り越え、この西美濃地域と共に手を携えて歴史と伝統を繋いでこられた先輩諸兄の存在に改めて感謝をする 1 年となったと感じます。

【真の平和に目覚めるための会員資質の向上】

周りに力を与え、周囲を巻き込み、想いを拡げて共感力を持つリーダーシップを発揮するために物事や自分の想いを相手に伝える能力を向上させ、リーダーとして必要な資質を高めるための 4 月度例会を行いました。神戸町立神戸中学校 2 年生を対象に様々な可能性と選択肢を提供し、地域の将来を担う人財へ成長する第一歩として頂くために、10 名の会員が自ら講師となり、講師以外の会員もチームを組み、自身の職業や進路選択についての講話を行って頂きました。生徒や先生も講話に真剣に向き合っており、会員にとっても多くの学びの機会となったと感じました。

7 月度例会では 4 月度例会に続いて、相手への物事や考えの伝え方を学び実践することで、リーダーとして必要な資質を高めるために小学生を対象に金融教育の事業を行いました。子供たちに講話をするために会員が事前に講習を受け、どのように講話を行えば子供たちの興味を惹き、伝えることができるかを考えながら事業当日まで準備を行いました。当日は神戸町立神戸小学校 2 年生から 4 年生の約 200 名の子供たちに授業を行い、お金の歴史や大切さ、そして感謝の心を持つことの大切さを伝えることができました。また、HIRO 学園でも授業を展開することで、外国籍の子供たちにも日本のお金について伝える貴重な機会も頂きました。

新入会員研修は 4 回開催し、座学や体験、実践を通じて、様々な角度から青年会議所の知識や魅力を学びまし

た。第 3 回新入会員研修はチームに分かれてクライミングに挑戦し、身体を動かしながら人間関係の構築を学び、第 4 回新入会員研修では新入会員1人ひとりが事前にプレゼンテーション資料を作成し、会員の前で発表して頂きました。11 月度例会でも新入会員による交流会への参加・協力というかたちで例会を行い、事前説明会ではコロナ禍前のリアル開催をされた交流会を振り返ることで 2023 年度の交流会の企画・運営に繋げることができました。結果的に 2023 年度の新入会員による交流会は会員と会員のご家族をお招きして現地で盛大に開催することができました。本年度の新入会員の皆様には 2023 年度の学びを活かして次年度以降も更なる活躍をされることを期待しています。

【魅力ある組織と会員による会員拡大】

大垣青年会議所は、会員数の減少や在籍年数の短期化に伴う課題を抱えており、今後も持続可能な組織としてあり続けるために 2023 年度も会員拡大に取り組みました。大垣青年会議所の活動や運動に共感して頂き、共に活動する人財を募るため、そして会員が地域を牽引するリーダーとしての自覚を向上させるために西美濃地域住民をお招きして 3 月度例会を行いました。また 5 月度例会では新入会員候補者もオブザーブ参加して頂き、講師の井上様、松浦様をお招きして講演を行って頂きました。大垣青年会議所やそれぞれの企業が今後もより多くの人財が集まり、魅力ある組織となるために、組織としての在り方、理念、目的の大切さを学ぶことができたと感じます。結果としては新入会員 6 名を入会に導くことができましたが、目標の 15 名には届かず、会員拡大の難しさを改めて実感しました。全員拡大と言っても、拡大に関わったことのない会員や初めて拡大を行う会員にとっては難しい部分も多いと感じます。今後も会員拡大を継続していくためには時代に即した組織変革を視野に入れて全会員で組織の在り方を検討していく必要があると感じます。次年度以降も会員 1 人が会員拡大に積極的に関わって頂くことを期待しています。

【持続可能な西美濃連携の新たな推進】

2022 年度に 2023 年～2025 年の 3 年間における運動の方向性を示す短期ビジョンである「最重点ビジョン」を『持続可能なまち西美濃』～住み続けられるまちづくりを目指して～、事業内容として「災害を見据えた広域連携に向けた取り組み」を策定したことから 6 月度例会では、防災について学ぶための事業を行いました。第 1 部では会員向けに災害ボランティアセンターについて学ぶことで、防災に対しての主体性を育むことができたと感じます。また第 2 部では 2021 年度に締結した「災害時における協力体制に関する協定書」を踏まえ、海津市の地域の方々、2 市 9 町の行政担当者、各地域の社会福祉協議会の皆様にもお越し頂き、災害部ボランティアについてのケーススタディや防災講座を行いました。また、第 1 部終了後には自衛隊による炊き出しの実演を行って頂き、災害発生時の自衛隊の皆様の頼もしさを感じる事業となりました。

そして、2022 年度に続き、2023 年度も「災害時における協力体制に関する協定書」に基づいて西美濃防災連絡協議会を西美濃地域 2 市 9 町の行政、社会福祉協議会の皆様にご参加頂いて開催し、各市町や大垣青年会議所における防災への取り組みについて情報交換することができました。次年度以降も関係者の皆様と協議をしながら次のステップに進めることを期待しています。

9 月度例会は 2023 年度に 10 回目の節目を迎えるツール・ド・西美濃 2023 に参加・協力をし、事業についての理解を深め、広域連携事業を通じて西美濃地域の魅力を発信することで西美濃の発展に寄与することを目的に事業

を行いました。当日は開会セレモニーへの参加・協力、ツール・ド・西美濃 2023 推奨コースの実走の 2 部構成で行いました。今回で最終のツール・ド・西美濃 2023 において開会セレモニーで各首長様にお越し頂き、各市町の行政担当者から担当地域の PR を行って頂いたことと、実際に推奨コースを会員がチームに分かれて走ることで、10 年続いたこの継続事業の歴史や素晴らしさを体感できた事業になったと感じます。次年度以降はこの事業に負けないくらいの広域連携事業を模索していって欲しいと願います。

【同志との繋がりを活かした組織力の向上】

2023 年度はコロナ禍の様々な制限などが緩和され、さらには 5 月には新型コロナウイルスが第 5 類感染症に移行したこともあり、多くの事業がリアルで開催される年となりました。

2 月度例会では公益社団法人日本青年会議所の青木監事をお招きして、「LOM に誇りを持とう～大垣青年会議所を次代に繋げるために～」をテーマに講演を行って頂き、その後のパネルディスカッションでも貴重な学びの機会を頂きました。コロナ禍の様々な制限で出向などの成長の機会が減少していた中で、経験豊富な青木監事の講演を聞いたことで会員にも良い刺激があったと感じます。

6 月には社團法人花蓮國際青年商會の会員が来訪され、4 年ぶりにリアルでシスター会議及び交流会を行うことができました。お互いの活動や運動を紹介し合うことで、お互いが良い刺激を受けた機会となったと感じます。次年度は花蓮國際青年商會との姉妹締結 55 周年を迎えることもあり、更なる国際交流の機会を 1 人でも多くの会員が経験できることを願っています。

8 月度例会と 10 月度例会では大垣市青年のつどい協議会の事業への参加・協力をし、大垣青年会議所から出向している出向者を支援すると共に労うことができました。大垣市青年のつどい協議会の加盟団体の会員も減少傾向にある中で、今後も我々、大垣青年会議所が主力となって大垣市青年のつどい協議会を盛り上げて欲しいと期待しています。

JCI、JCI 日本の事業への参画では、京都会議、岐阜会議、JCI ASPAC インドネシア、サマーコンファレンス、東海フォーラム、岐阜ブロック大会、全国大会、JCI 世界会議スイス、岐阜ブロックじゃがいも大会など、すべての事業がリアルで盛大に現地開催されました。多くの会員が現地に集い、事業へ参加したことで多くの成長の機会を得ることができたと感じます。出向においても日本青年会議所、東海地区協議会、岐阜ブロック協議会、大垣市青年のつどい協議会へ多くの会員出向して頂くことで、出向者の方々、大垣青年会議所にとっても多くの学びや新たな学びを得る機会となりました。次年度は岐阜ブロック協議会を 11 年ぶりに主管する年となり、次年度に向けても良い準備をする機会になったと感じます。

【会員一丸となっての組織変革】

歴史ある大垣青年会議所が 72 年目を迎え、今もなお、青年会議所活動や運動を行えているのは先輩諸兄が情熱を持って、この組織を正確かつ円滑な組織運営と共に継承してこられたからであると考えます。しかし、現状は会員数が減少し、組織運営が厳しさを増しています。さらにはコロナ禍が収まり、今までのような青年会議所活動へと戻っていくなかでの負担は大きかったと思います。

1 月度例会では 2023 年度の運動を展開するうえで非常に重要な事業となりました。3 年ぶりに各市町の首長をはじめ、来賓、来訪 JC、大垣 JC シニアクラブ会員の皆様にもご臨席を賜り盛大に開催することができました。当日

は入念なリハーサルを行うことで、滞りなく例会を開催することができました。私自身も理事長挨拶で多くの参加者の前で 2023 年度の運動の発信をさせて頂いたことは、今後の財産となりました。また、新入会員のアトラクションも素晴らしく、本当に良いスタートを切ることができました。

12 月度例会では 2023 年度の締めくくりとなる例会を行って頂き、卒業生を送る会として開催をしました。卒業生からこれまで自分自身が青年会議所活動や運動で学んだことを在会生へ伝える機会となり、2023 年度も大垣青年会議所の歴史や伝統を次代に繋げることができたと感じます。今後も残る会員は自分が卒業する時の姿を思い浮かべて、今一度気を引き締める機会になったのではと思います。今後も更なる活躍をして頂き、卒業を迎える時に少しでも後悔が残らないように全力で邁進して頂きたいと願っています。

通常総会及び臨時総会の設営・運営、理事会運営に関する事業においても、様々な苦労があったなかでも総務委員会をはじめ、常任理事、理事のご協力のもと 1 年間を無事に乗り越えることができました。また、2023 年度は事務局の移転もあり、例年以上の担いがありましたが、移転当日も多くの会員のご協力により、1 日で移転が完了したことは今後の組織運営も期待できると感じました。1 人の力は小さくても、1 人ひとりが相手を思いやり、行動することで、何倍の力にもなると実感した瞬間でもありました。次年度以降もこのことを忘れずに自信を持って活動や運動に邁進して欲しいです。

【明るい未来を創造する】

この予定者段階からの 1 年半を振り返ると、本当に様々な成長の機会を頂いたと感じることができる 1 年でした。

平和に見える世の中の本当の状況を把握し、真の平和に向けて各々が自分の人生を自分はどう生きたいかを考え、原点に立ち返り、自分のルーツを大切にしましょう。大垣青年会議所での活動や運動を仲間と共に取り組み、それぞれが夢を真剣に語り合って自分の想い描く姿を想像し前へと進んでいきましょう。その姿を次代に伝え、いつか来る真の平和な世の中を夢見て時代を変革するために反骨心と和の心を持って、西美濃地域の永続的発展の実現と我が国の明るい豊かな未来を創造して参ります。

新年互礼会でこのように締めくくり 2023 年度がスタートしました。様々なものに対しての原点を見つめ直し、そこから歴史を学び、自分のルーツも重ね合わせて、その時々に出せる最良の答えを見つけ判断しながら 1 年間邁進してきました。答えを出した後でもこれが最良の判断だったのか、もっと良い判断はできなかったのかと悩みながらも前へ進まなければなりませんでした。今は非常に難しい時代を生きていると感じますが、人と人の出会いを大切にし、何事にも挑戦して、文句を言う前に行動することを意識して 2023 年度を駆け抜けてきました。そして私も含めて、1 年間活動を共にして頂いた多くの会員が覚醒をして、各々が真剣に青年会議所活動に取り組んで頂いた 1 年になったと感じています。今後も西美濃地域の永続的発展の実現と我が国の明るい豊かな未来を想像して活動や運動に邁進して下さい。

1 年間、共に活動して頂いた皆様に心より御礼申し上げます。1 年間、本当にありがとうございました。